

研究課題名「直腸癌における CT 検査の診断能の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2006 年 8 月から 2016 年 8 月の間に当院で下部直腸癌に対して根治術を行った 130 症例を対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

欧米においては高解像度 MRI を用いた T2 強調画像が直腸癌の局所の進展やリンパ節転移の診断に有用であるとされ、必須の検査と考えられています。特に、circumferential resection margin (CRM)、原発巣における壁外静脈侵襲 (Extramural venous invasion; EMVI)、側方リンパ節転移は、下部直腸癌症例の重要な予後因子であり、MRI の主たる評価項目となっています。

しかし、MRI 検査には、再像時間が長時間にわたる、消化管の撮影には技術を要する、などの欠点もあり、本邦における MRI による直腸癌の評価の普及は十分とは言い難い状況です。

一方で、直腸癌症例には遠隔転移検索を主目的とした胸部～骨盤の CT 検査が必ず行われます。特に現代においては thin slice 撮影が標準的になされていることが多いです。遠隔転移検索を目的とした CT 検査ではあるものの、実臨床においては直腸癌の局所評価として十分な情報が得られ、特に 1mm スライス画像の情報量は多いです。

MRI 検査における重要な評価項目とされる、CRM、EMVI、側方リンパ節転移の各項目に関して、CT、特に 1mm スライス CT による診断能が十分であれば、不要な MRI 検査を省略できる可能性があります。

本研究では、MRI 検査において重要な評価項目とされる、CRM、EMVI、側方リンパ節転移の各項目に関して、CT、特に 1mm スライス CT による診断能・特徴を明らかにすることを目的としています。

本研究は上記対象症例の臨床情報を解析することで行います。

研究期間は実施承認日から 2022 年 12 月 31 日とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、術前画像検査、手術情報、病理検査結果、術後経過、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話番号：052-741-2111

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院消化器外科 1 上原 圭